

新宿区立漱石山房記念館 令和6年度第1回運営学術委員会 議事概要

日 時：令和6年11月6日(水) 10時から12時

会 場：新宿区立漱石山房記念館 地下1階 講座室

出席委員：半田昌之会長、中村廣子副会長、大木志門委員、佐藤裕子委員、松下浩幸委員、
河野奈美江委員、吉川友子委員、松澤亮委員、守谷賢一委員、村上京子委員、
北見恭一委員（11名）

欠席委員：大木真徳委員、山岸吉弘委員、山口進委員、波多江誠委員（4名）

事務局：村上喜孝(文化観光課長)、北村ころ(文化資源係長)、山田郁也(文化観光課主任主事)、久米美弥子(文化観光課主任主事・学芸員)、弥永直子(文化財研究員)

財 団：岡崎保(文化・芸術振興部長)、福田義和(漱石山房記念館係長)、今野慶信(漱石山房記念館学芸員)

1 新任委員あいさつ

河野奈美江委員

村上京子委員

2 議事概要

(1)令和5年度の記念館事業等の実績

(2)令和6年度上半期の記念館事業等の実績及び下半期の事業予定

・『硝子戸の中』の展示の時に、早稲田小学校のお子さんたちが町探検ということで記念館に伺って、学芸員のお話を聞いて見学したんですけど、3年生だったと思いますが「あ、今もこの道残っている」とか、とても関心を持って見ていたんですね。夏休みは少しハードルを下げてというお話もありましたが、ぜひ子どもたちにそういった形で記念館に足を運んでいただくような事業を続けていただければと思います。親子で楽しむ読書感想文、こういった事業も2年続けてやっていただけてますが、次世代につなげる事業をお願いしたいと思います。

そして初版本の展示の時は、町会連合会がこちらの講座室を借りてやらせていただいたので、館長さんにお案内いただいて見学しました。皆さん初版本の鮮やかな色彩に感動しておりましたね。人気投票で、シールを貼っていく。ああいう参加型の形式も良かったと思います。

回答：初版本の展示ではワークシートを用意したんですが、けっこう広く使っていたので、人気投票も反応があって、ブログに結果を発表したんですけども、今後も意識してやっていきたいと思っています。本を手がけるデザイナーの方々だったり

とか、そうした方々が反応していただき、SNSでも発信してもらい、あらためて紙の本の良さを気づいていただけるきっかけになったと思っています。

- ・アンケート調査をやって、結果とかデータというのは、こういうことやりました、何人入りましたというご報告はあるのですが、入館者がどういう風に感じられたのかとか、また逆にどういうネガティブなご意見があったとかいうのは、できる範囲でこの委員会にもフィードバックしていただけると、皆様のご意見も出やすいのではと思います。ご検討下さい。
- ・アンケートについては私もすごく重要だと思っています。この「館報」には来館者の声とかは掲載していないので、今後はそういう声も加えていくことも検討したいと思っています。
- ・ようやくポストコロナという感じになってきて、イベントもかなり参加者があるということで、結構なことだと思います。それとは別に、先ほど特に説明がなかった「館報」18頁の資料収集のところですね。なかなか面白い資料がありますが、久米正雄の関係資料150点余りというのは規模が大きくて、久米の資料は近年割と断続的に古書市場に出てるんですけども、今回の資料はどのような内容なのでしょうか。今後の展示とかに活用できそうなものは入っていたのでしょうか。

回答：久米正雄は第四次「新思潮」のメンバーということで、当館にとっても資料収集していきたい人物です。この資料は七夕古書入札会に出たもので現在整理中ですが、研究資料という部分が多いかもしれませんが、展示に活用できるようなものも含まれております。今後も久米正雄、松岡譲あたりの資料を収集していきたいと考えております。

- ・久米、松岡という名前もあがりしましたが、近年著作が復刊されたりとか再評価も進んでいますし、寄贈資料にも松岡の久米宛書簡なんかもありますので、久米の企画展もできるんじゃないかと思います。新収蔵資料というのは通常展なんかに今後出てくるという感じでしょうか。

回答：新しく受け入れた資料について、展示テーマと調整する中で、できる限り紹介していく予定です。新収蔵資料にはその表記をし、基金活用の購入資料についてもその表示をして紹介をしております。

追加説明：収蔵資料についてご説明させていただきます。「館報」の18頁、令和5年度の収蔵資料ですが、基金に全国からご厚志が寄せられており、そちらで購入した資料です。お尋ねがありました久米正雄関係資料については七夕古書入札会でおりましたので、内容を下見した上で購入しました。そのほか、『吾輩ハ猫デアル』上編 初版本ほか22件ですが、記念館では漱石の初版本を1セット収蔵しておりますが、展示による劣化が見込まれますので、もう1セット収集したいと考えておりました。今回状態の良い初版本のセットが出ておりましたので購入いたしました。珍しいところでは、夏目漱石水彩画額〈収穫図〉、これは希少な漱石自筆の水彩画で、収集できたのは幸いでした。それから漱石の『永日小品』から「山鳥」の原稿。記念館では自筆原稿は「土」に就て」とか「ケーベル先生の告別」といった小品の原稿は所蔵していたのですが、はじめて小説の原稿を収

集することができました。寄贈資料でも、漱石 鎌田敬四郎宛て書簡など貴重な自筆資料がありました。

- ・資料の収集は博物館としての継続的な活動の根幹にかかわるところですので、充実した形で続けていただきたいと思います。いま基金はいくらぐらいあるのですか。

回答：累計1億6千万円以上のご厚志をいただいているところですが、現在7千万円ほど積み立てがあります。

- ・当面は大丈夫そうですか。区では基金以外の資料購入予算というのはお持ちなんですか。

回答：単独の区予算という形では持っておりません。1千万円の歳出予算があるのですが、使った分を基金から繰り入れする、つまりご寄附いただいたお金から資料を買っているというのが実態になります。

- ・いま資料収集についてご意見をいただきましたけど、やはりこういうのはできるだけ間を置かずに一般の方にご紹介すべき情報で、そういうことを見える化していくと、記念館の活動も、よくやっていますねというイメージが定着していくことになると思うので、ぜひオンラインも活用しながら、情報発信や展示公開を積極的にお願いしたいと思います。

- ・今年も榎町地区で暗唱コンクールやりましたが、今までは最優秀賞がほとんど同じ学校に固定していたのですが、今年度は甲乙つけがたく、他の学校から最優秀賞が出たんですね。後で校長先生たちに伺いましたが、学校も力を入れてやっている。学校単位で暗唱コンクールは企画できないので、こうして地域でやっていてとても助かっていますとか、励みになっていますとかおっしゃって下さったんです。そのことを皆さんにお伝えしたいと思います。

それから基金で購入した資料ですね、そういったものを何年かに一回くらい、寄附をくださった方々に、こういうものを買いましたという報告をしてはいかがでしょうか。

回答：毎年7月くらいですが、前年度の寄附の実績と、その基金を活用してこういうものを購入しましたというチラシのようなものを作成して、ご寄附いただいた方々に郵送しています。このチラシは区のHPでもご覧いただけます。

- ・情報検索システムで、令和5年度末時点の区所蔵資料513点というのは、どの資料を指しているのでしょうか。所蔵資料とか、閲覧資料とかいろいろあるので教えてください。

回答：記念館として所蔵している一次資料を中心とした資料で、収蔵庫で管理しています。その他に書庫にある閲覧資料があります。検索システムではデジタル画像も見いただけます。実物の閲覧は、研究・調査・撮影等の目的で申請していただくことになります。

- ・山梨の文学館なんかもそうですけど、館内だけじゃなくて、どこでも見れるような形で公開していく流れが進んできています。見通しとしてはそういうことも考えておられるのでしょうか。

回答：館蔵資料について、全部をオンライン上に載せるのかということについては、課題もあり、区と相談しながら環境整備をしつつ、検討していくことになると思います。

- ・必ずしも全てを公開しなければいけないということではないと思います。それぞれの自治

体で基準を作ってやっていますので、じっくり検討していただければと思います。

- ・東北大学附属図書館は全部見られるようにしましたね。

回答：改正博物館法でもデジタルアーカイブ化が非常に留意されております。公開のありかた等も検討しはじめたところですので、今後少しずつ充実できればと思っています。

- ・今ご説明いただきましたように、改正博物館法においては、所蔵資料のデジタル化とデジタルアーカイブの公開というのが、努力義務として課せられています。何を公開する、何を公開しないというのは所蔵者の判断になるわけですが、方向としては公開できるものは公開していくという方向で引き続きご検討いただければありがたいと思います。

- ・竹あかりのイベントが素敵だなと思うのですが、遠くからそれだけを見には来れない。12月の夕方になさっているわけですが、ただ竹あかりでライトアップするということなんでしょうか。その間に夜間会館をすとか、何か館内の事業と関連させているのでしょうか。夏とかでしたら夕涼みにと、遠くの人もふらっと来るということもあると思いますが、冬なので、効果としてはどうなのかと。

回答：こちらはライトアップは16時30分から20時ということですが、この期間中、竹あかり自体は通り沿い並んでいるという状況になります。今のところその期間に夜間開館をするというようなことは予定はしておりません。けれども、皆さんに見えていただけるように期間中はずっと置いてあります。通行人の方とか、ご近所の方は、通り道ということで見ていただいていると思います。期間中は終日置いてあるので、点灯時間でなくても、休館日でも見ていただけます。この時期、16時半だともう暗くなっている状況なので、そこで点灯していると、けっこう反応はあります。記念館は建物自体を見ている方も多いので、ライトアップされた状態を見ていただけるのは意味があると思います。

(3)令和7年度記念館事業等の予定

- ・令和7年度事業予定で、「外国語になった漱石作品」ということなんですけど、2016年のフェリス女学院大学の夏目漱石国際シンポジウムの時に、岩波書店、朝日新聞、国際交流基金がお金を出してくれて出た報告書の最後に、現在手に入る漱石作品の外国語翻訳本を言語ごとにまとめた一覧表があるんですね。だからそれをご覧になると、特に国際交流基金はヨーロッパ言語とか英語とかは強いかもしれないけども、中国語も韓国語も全部入っています。ほとんど手に入らないものも多くございます。ぜひ見ていただければと思います。
- ・国際交流基金は村上春樹さんにはすごく強いんですよ。でも漱石も集めてらっしゃったから、いくつか埋まると思います。
- ・私も国際交流基金の関係では林芙美子関係はいつも調べていて、漱石についてもとても興味があります。あまり関係ないけれど、先日、新宿区の友好提携都市ギリシャのレフカダ市との友好行事に参加させていただきました。参加する前に漱石がギリシャ語で翻訳されているかを調べましたら一冊もなかったんです。ほかの著名作家、谷崎潤一郎、森鷗外、村上春樹とかはあるんですけど、漱石はなかったのです。国際交流基金のデータベース

を基に調べましたが、漏れているのもあります。アジアのはかなり漏れているのではないかと思います。その時、レフカダ市の方にお話はしなかったのですが、翻訳されていない国に漱石山房が主体となって、働きかけていけるといいと思いました。

回答：外国語になった作品を、この機会に力を入れて集めていきたいと思っています。
活用させていただきます。

- ・「漱石と漱石山房」は、其の一、其の二で、来年度も其の三を企画をされているようですが、それぞれ何か目玉というか、その中で紹介したい内容というのはサブタイトルみたいな形でつけるのでしょうか。PRをする際、「漱石と漱石山房」其の二、其の三だけじゃなくて、サブタイトルとか、そういったものがあるとPRしやすいと思うのですが。

回答：そうですね。昨年度はじめて開催しましたので、今後どういったタイトルにしていくか考えていく必要はあると思います。実際に情報をリリースする際、リード文ですとか代表的な資料とかを合わせて紹介するような形はとっておりますので、目玉になる資料とか、新収蔵資料とかは、お客さんを引きつけるような情報になると思います。

- ・それではそろそろまとめていきたいと思いますが、区として、地域に愛され、区を代表する文化施設として大切に考えているということ。ありがたいことだと思います。

運営財団、現場、区という三つグループがある中で、いろいろと難しい調整もあろうかと思いますが、そろそろ開館10周年を見据えてどういう風に事業を展開するのか、運営の基盤をどういう風に整理していくのかということも視野に入れながら、年度ごとの計画を立てて行かれることと思います。

今日のご報告を聞いていて、ちょっと気付いたことがあるんですけど、一つは「館報」の中に館独自の調査研究ということ、学芸員の活動について、開館前から紆余曲折のあったいろいろな課題を抱えられながら、現在は5名の学芸員有資格者が配置され、少し安定してきた中で学芸員がどういう仕事をされているのか、どういう調査研究をしてきたのか、そういうところを積極的に出していくべきだと私は思っています。特別展のカタログを拝見しても、担当している学芸員のお名前が記されていない。まるで外部の学識だけで執筆しているように見えるのは、将来的に良いことではなくて、やはり学芸員がしっかり原稿を書いて、発表していくというのが、博物館の基本機能、屋台骨ですので、積極的に発信した方が良いのではと感じました。

それから、これは記念館だけの問題だけじゃないかもしれませんが、早稲田小学校の町探検のお話にもありましたが、今日、さまざまな局面で博物館のバリアフリーを進めていかなくてはならない。誰もが来やすい環境をつくるということ、次世代を担う人たちができるだけ記念館に足を運んで、そこで学んだことを未来に生かしていくということが、すごい大事だと思います。しかし現状は小中学生から観覧料をとっている。例えば小中学生無料とか、高校まで含めて無料とかいう運営を検討している博物館がけっこうあります。料金をとることによって発生する人を置くというコストもかかってくるわけで、無料にするメリット、デメリットもご検討しながらシミュレーションをしていかれたら良いのではないかと思います。方向としてはやはり若い世代、未就学の人たちも含めて、できるだけ気楽に訪ねてきていただける環境を整える。近くに小学校もあるので、ランドセルを背負っ

た子が、放課後に気軽に立ち寄れるというような雰囲気づくりも含めて、観覧料金体系みたいなものを、財団と区で検討していただければと感じたところです。

それでは特にご発言がなければ、意見交換についてはこれで終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

この後、特別展の見学をさせていただきます。お時間のある委員はどうぞご参加下さい。

(4)特別展「『三四郎』の正体 夏目漱石と小宮豊隆」見学